



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO ■ DOHO ■ ENGOKAI

同援だより

2011年 秋 号

<http://www.doen.jp/>



本物の議論を

常務理事 菅原眞廣



政府は、六月三十日に「社会保障と税の一体改革案」を決定し、公表しました。この改革案では、社会保障の安定財源確保のため、消費税を目的税として、当面、税率を二〇一〇年代半ばまでに10%に引き上げると明記

されています。いよいよ、社会保障の財源に関する議論が煮詰まってきたようです。

わが国の現行の社会保障水準を維持するには、大幅な財源が必要であり、現在はその多くを赤字国債という借金で賄っています。その限界はもう明白になっています。

そもそも、社会保障のための安定財源の確保のためには、消費税を社会保障給付のための目的税とし、必要とされる税率まで増税するという考えは従来から繰り返し主張されてきました。しかし、「増税する前に、徹底的に無駄を省け」、「経済成長を優先させるべき」などの声もあり、なかなか合意は得られませんでした。今回の改革案も、こうした声の前で国民的合意が得られるかどうかは不明です。

おりしも、東日本大震災の復興財源をめぐって、臨時増税の議論が進んでいます。この議論の趨勢が次の消費税の話に大きな影響を与えるものと思われれます。

ともあれ、政府が正式に提案した改革案に関して、各方面において本物の議論がなされることを期待します。

いきいき福祉サービス

高齢者支援系グループ

牛込保健センター内に移転して

榎町高齢者総合相談センター

相談課長 後藤八重子

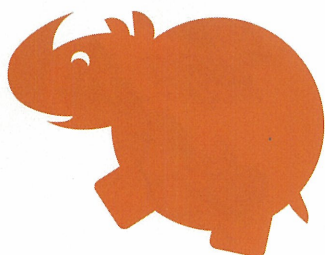
「移転までの経緯」

新宿区からの委託を受けている「新宿区榎町高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」は、今まで原町ホームの隣にあった原町高齢者在宅サービスセンターと同一の建物からこの八月二日に同区内弁天町にある牛込保健センター一階へ移転いたしました。この建物は、保育園・生活実習所・保健センターと、もともと三事業所が入る複合施設で、その一階の一部改修工事を行い、新たに高齢者総合相談センターとして使用することとなりました。

今回の移転は区の方針に沿ったものですが、背景には、包括支援センターの知名度不足がありました。平

成十八年度の介護保険制度改正で、

それまであった「在宅介護支援センター」から「地域包括支援センター」へ名称と役割を変えましたが、地域住民や利用者からは「地域包括支援センター」とはいつたい何をしているところなのか解りにくい」と言う声が多く、知名度アップのため平成二十一年度には新宿区独自の名称として、「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」に変更し、私たちの提案したイメージキャラクター「ご相談ください」（新宿区の形が動物のサイに似ている）も制定しました。そして担当エリアも近隣エリアから出張所毎に



ご相談ください

変更となりました。さらに機能強化を図る観点から、総合相談センターを区立施設内に順次統合していくという方針も示され、その第一号として榎町高齢者総合相談センターの移転が決定しました。

「現在の場所に移転して」

まだ一ヶ月分のデータしかありませんが、全体的な相談件数に大きな変化はありません。しかし、来所相談件数は倍増しています。担当エリアの中心にきたこと、保健センターに来所したついでに相談はもちろん、出張所と地域センターもすぐ近くにあるので利便性が増したのだと思います。バス停の目の前にあるために、今まではないバス路線上のエリア外の地域からの相談者もとても増えています。来所相談が増えたことで、4箇所ある相談スペースが手狭になることもしばしば起きています。

平成二十二年度から、新宿区は高齢者総合相談センターの機能強化を図り、独自のやり方となりスタッフの人数も倍増され、総合相談チームと、介護予防居宅介護支援事業所としての予防プランチームとの二つのチームができました。これまでの所は手狭で使いきれなかった所がありましたが、今は同じ部屋で業務が行なわれ、お互いの仕事

がより見えるようになり、さらなる協力体制が自然ととられるようになり、連携が強まっています。

「今後の制度改正に向けて」

平成二十四年度の四月一日より行なわれる介護保険の制度改正では、「地域包括ケア」が目玉となつていきます。地域をつなぐネットワークの中核である高齢者総合相談センターは、今後もさらに重要な役割を担っていくかねばなりません。新宿区の第五期高齢者保健福祉計画の趣旨にも応え、相談機能の充実を図って参ります。九名のスタッフが一つのチームとしてスキルアップに努め一丸となって高齢者福祉サービスの向上に努めていく所存でおります。



障害者支援系グループ

ご利用者主体の喫茶コーナー運営
ベーカリー&カフェ 麦

立川福祉作業所

製パン事業担当 吉村 治朗

「パンを作ろう！」

立川福祉作業所が東京都から運営移譲を受けたのは平成十八年四月でした。利用者のみなさんの工賃を増額すること、やりがいをもつて通所していただくことが、東京都から運営を引き継いだ私たちの大きな使命だと思い、事業の計画を立てました。

今までのように企業から受託した作業では、お菓子の箱を二つ作って0.5〜10円未満ですので、一生懸命働いても一人当たり月額で数千円の工賃にしかなりません。少なくとも月平均二万円以上の工賃をお渡ししたい。そんな思いで製パン事業を計画しました。

また、立川駅からほど近く、住宅地である立地条件がともよいので、喫茶コーナーも併設すればお客さんは来てくれると考えました。

永く地域の皆様にご愛顧いただくには「障がい者が作ったパン、障がい者の工賃になります」ではなく、「おいしいパン」をつくることを目標にしました。

まず、食の安全とおいしさを両立するために、小麦粉、油脂塩、卵にこだわりました。

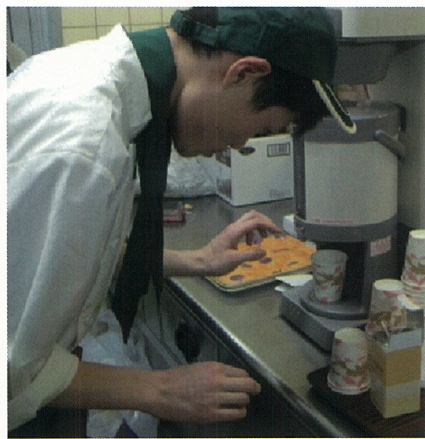
そして、いつ行っても新しいメニューのパンがある。そんなパン屋さんを目指して平成十九年に施設を改装して機械を入れて、ベーカリー&カフェ BAKU BAKU BAKU をオープンしました。

麦(BAKU BAKU)という店名も利用者さんと一緒に考えて決めました。

「私の店でパンを買って」

はじめは私たち職員も素人ですから利用者のみなさんと一緒にパン作りの勉強の毎日でした。それこそ失敗と苦労の連続でした。

利用者のみなさんにも、爪を切る、手をよく洗う、消毒する、マスクと専用キャップを着用するなど、衛生面について今までの作業より確認していただくこと



が増えました。

やがて、利用者さんもパン生地を伸ばして成形したり、クリームをのせたりなど、パンを袋詰めしたりなど、だんだんとできることを増やしていきました。

職員もアイデアを出し合って、季節の材料を取り入れたり、新しいレシピのパンを作ることも慣れてきました。

BAKU BAKU の緑のベレー帽と店名が入ったユニホームは、店の雰囲気にとっても合っていて、利用者のみなさんも職員も、誰もが着てみたいシンボルとなっています。

そんなベーカリー&カフェ BAKU BAKU は利用者のみなさんにとって誇りであり、皆が「私の店」という気持ちをもっています。

そして、仕事帰りにお茶を飲んだり、家族のためにパンを買ったりしています。

そんな思いを共有し、みんなが宣伝マンになって口コミで評判が広がり、お客さんの層もどんどん広がりました。

「順調な広がり」

開店五周年を迎え、現在は固定客も多くいらつちやいます。

いまでは、法人内外の施設等にパンを届けたり、研修の昼食やイベントにパンを提供したりしています。また他の社会福祉法人、高齢者施設の一角にて喫茶コーナーの運営を請け負うなど、活動範囲がグンと広がっています。



その喫茶コーナーでは利用者のみなさんも接客に参加しており、お客様をよく覚えていて「あのお客さんはブラックコーヒーね」といった具合です。

お客様も楽しみをしていたらいます。ようで、「おいしいパンですね」「〇〇さんまた来てね」などと声をかけてくださいます。

このように、立川福祉作業所ではパンを通じて利用者のみなさんの活躍の場が多くなり、様々な交流に発展しています。そして、企業の請負作業とパンの仕事に合わせて工賃も大幅に増額しています。これからも利用者のみなさんが充実感をもって働ける場として事業をすすめて、毎日元気に通所していただけるように努力して参ります。

保育支援系グループ

わくわく冒険ランド設置

つつじが丘保育園

主任保育士 川村 純子

「地域で育った木材が

子ども達の遊具に」

平成二十年度の遊具点検において、つつじが丘保育園の木製遊具は腐食の発生の課題が出ていました。



わくわく冒険ランド

このため、園児の健康増進や情緒の安定、自然や木に対する興味を持つなどの良好な環境を確保することが出来ることをを願い、平成二十二年度、東京都の推進事業として多摩産材を利用した木製遊具を導入することが決定しました。

三十〜四十年前までは子どもたちが元氣よく野山を駆け回っていました。現代の子どもたちは、テレビゲームのような静かな室内遊びが主流となり、体を動かすことが極端に少なくなっています。幼児期の積極的な運動は、子どもの集中力・忍耐力の発達につながり、自分で判断することのできる心身ともに健やかな子どもを育むと言われています。そんな子どもたちに育ってほしいという願いも今回の木製遊具に込めました。

「わくわく冒険ランド完成」

そして昨年度末につつじが丘保育園園庭に大型木製遊具『わくわく冒険ランド』が完成しました。この遊具の名前は当時の子どもたちが話し合い、わくわくするような楽しい遊びがたくさんつまっているという思いを込めて決定されました。現在は毎日のように子どもたちがワクワク、ドキドキしながら様々な遊びを繰り広げています。遊具の下の部分は主に乳児クラスの子どもたちがまるで自分たちの基地のように集まってままごとをしたり、三輪車で集まって



地域の親子も遊びに来ています。

渡ったり登ったりを楽しむ姿など！まさに子どもたちがわくわくするような冒険がいっぱいつまった遊具です。

「地域の子どもの利用も」

現在は園児が中心となり毎日遊んでいます。その中で地域活動の一環として、園庭開放の際などに地域の方々にも楽しんでもらえるように働きかけしています。

園外を通った際や電車から見える背の高い赤い塔や風見どりが、つつじが丘保育園のシンボルのように見えます。これからも地域の方も大人も子どもたちも楽しみ、全身を使ってたくさん遊びこめる遊具であってほしいと願っています。

やら話をしたりしています。遊具の中はロッククライミングや綱のぼり、うんていやのぼり棒などといった全身を動かして遊ぶことができる要素がたくさんつまっています。乳児向けの場所と幼児向けの場所に分かれて段階的に楽しめるようになっています。かなり高さのある見晴らし台は三メートルあり、塔につながるのぼり棒に挑戦できるのは今のところ年長さん。そこにスルスルと登れるのは年長女児の一人だけです。それを憧れのまなざしで見ると子どもたちと、自分も！と汗をかきながら必死で挑戦する子どもたち。ハンモックに揺られながらなんとも嬉しそうな表情の子どもたち。順番を待ちながらタイヤを



児童女性支援系グループ

変化する母子支援の

課題解決に向けて

サンライズ万世

所長 南山 徳英

「時代と共に変化した役割」

終戦当時、多数の戦争未亡人(母子)が生まれ、戦災者、引揚者母子と共に、生活力が弱くそれらを保護することを目的に、生活保護法に基づく保護施設として、母子寮(現在は母子生活支援施設)が創設され母子の救済を行ないました。

昭和三十年代になると、離婚、未婚、家出、遺棄等の生別母子家庭が増加し、平成に入るまでは、母子アパート的な需要が強く(屋根対策)機能として、母子を保護し自立のために生活を支えることが使命でした。

平成に入ってから、母親の若年化傾向、子どもの低年齢化(乳幼児の増加)、心身に障がいを持った母子が増え、問題が複雑多様化し、生活支援の専門性がより要求されるようになりました。

平成十年に児童福祉法が一部改正され、施設の名称も「母子寮」から「母子生活支援施設」に改称されました。それに

伴い役割(目的)も変化してきました。

現在では、少子化、夫婦共働き(核家族化)、家庭や地域の子育て機能の低下、DV、児童虐待等、児童や家庭を取り巻く環境が大きく変化してきています。支援の内容も近年は、心理相談、精神安定のための支援、体調に関するアドバイス等が大幅に増加しています。そのため適切な援助支援を行なうためには、心理的支援を充実させて高い専門性と機能強化が求められるようになりました。そこで従来週二回三時間の心理相談を、利用者の状況や施設の役割の変化に伴い、平成十八年度より月曜から土曜まで心理相談員を常勤化して支援の充実を図っています。

「私達の取り組み」

母子生活支援施設が母子のセーフティネットになり、母と子の権利擁護と生活の拠点として子どもを育み、子どもが育つことを保障しなければなりません。また、安定した生活を支え、母子の主体性を尊重し自立への歩みを支えることが使命です。母と子及び地域社会から信頼されるように、次のような機敏で柔軟な施設運営を行なっています。

① DV被害者の広域(利用)受入

都内二十六市内にある母子生活支援施設は、もともと二十六市全てから

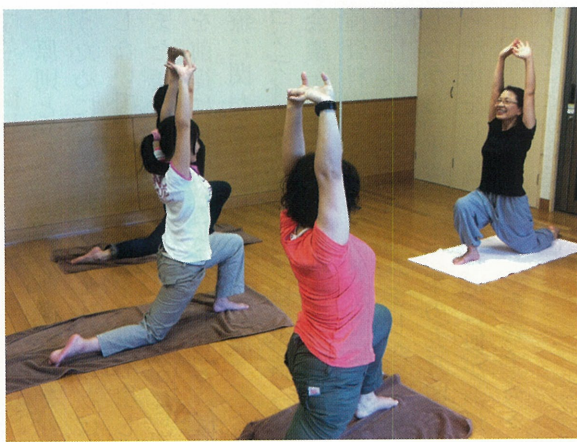
受け入れをしてきました。しかし、市部から区部へ、区部から支部への利用は原則できないことになっていますが、当施設はDV被害者に限り、区部からの受け入れを東京都及び昭島市の了解の上、入所を受け入れていきます。

② 緊急・時利用の拡大

当施設には緊急・時室が一部屋あり、二十二年度は五つの市と契約を結んできました。二十三年度は、十二の市と契約を結びました。緊急・時利用の拡大に繋がることを願っています。

③ 利用者に合わせて柔軟な支援

母親にはヨガ教室・ペアレントトレーニング(子育て講座)・カウンセリング、子どもには、箱庭療法・プレイセラピー・生活



場面面接を行なっています。職員にはティーチャーストレーニング(ソーシャルスキルトレーニング)を施設内研修で行ない支援のスキルアップを図っています。

④ 心理相談室の開設

施設内の心理的支援の充実は勿論のこと、平成二十二年度より地域における子どもや女性の心の健康な発達や成長を支えるため「心理相談室」をスタートさせました。

(一) 相談室の目的

地域の幼児・学童期の子どもの対象に、子育てや教育上の気がかりなことについて、認知行動療法や応用行動分析の考え方を取り入れたプログラムを活用し、子どもの発達と療育を支援します。

(二) 相談の内容

「子どもの元気がない」「学校に行きたがらない」「落ち着きが無い行動が心配」「言葉がうまく話せない」「特定の癖やこだわりが心配」など子育てや生活、教育上の様々な心配や不安困っていることについて、具体的な対応方法を一緒に考え、子どもの発達の特徴を理解し合い、発達段階にあった働きかけをすることによって、心身ともに健やかに成長ができることを目指しています。

また、配偶者等による不適切な言動等に悩んでいる女性のための相談も行ないます(DV等女性相談)。

昭島病院

病院機能評価の認定について



昭島病院
事務長 長沼 君夫

病院機能評価のVersion6について、昭島病院が認定されたので報告いたします。なお、当院における病院機能評価については、五年前にVersion4で認定されており、当院にとっては、二度目の認定です。

(1) 病院機能評価とは

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が適切に実施されているかどうかを評価するものです。具体的には、医療に携わった、あるいは携わっている専門家が評価調査者(一般的には「サーベイヤー」と言う)になり、中立・公平な立場から、所定の評価項目に沿って、病院の活動状況を評価するものです。

評価の結果、明らかにあった課題等に対し、病院が改善に取り組むことにより、医療の質の向上を図り、安心、安全、信頼と納得の得られる患者サービスの提供につなげようとするものです。

評価項目は、その時々々の医療環境の変化に伴い、必要あるいは重点的項目を設定するものであり、現在はVersion6という形で実施されています。病院機能評価は、各福祉施設などで行われている第三者委員による事業評価の言わば病院版です。

(2) 受審に対する院内の反応

前回受診してから四年目の昨年五月頃に、当該事業の実施主体である「公益財団法人日本医療機能評価機構」から、平成二十三年七月が機能評価の更新時期にあたりと受審の打診がありました。

これを受け、院内で受審すべきかどうか様々な意見が出ました。

① 機能評価を受けても経営的面でなんのメリットがない。

② 前回受審による一定のノウハウはあるが、膨大な事務量になるといった受審に否定的な意見に対し、一方では、

③ 五年に1回位当院の全事業の見直しは、新たな課題の発見になる。

④ 病院挙げて行うことにより、業務改善への助長など職員の意識改革になる。

⑤ 受審を契機に、一層患者サービスの向上つなげよう等々である。

これらの意見を集約し、受審医療機関が減少傾向の中で、当院としては受審し、最終的には患者サービスの向上に結びつく、結び付けたいという理由から受審することに決定したものです。

(3) 当院における取り組み

原則として、受審の準備事務を行うために新たな組織を作ることはいらないで、既存の組織をフル活用し、また通常業務の中で対応すること前提に進めることにしました。医療に関わる事は「医局会議」で、事務、コメディカルにかかる事は「事務会議」で進行管理等を行い、また各種資料作りは担当部署が責任をもって作成することで臨みました。しかしながら、平成二十二年の九月頃から準備をし、調査項目毎に何が不足し、整備されていないのか総チェックすることから始めました。

一方、既にVersion6の認定を受けた他病院を訪問し、状況把握と参考資料の入手依頼など、組織的な行動もとりました。

このように対応しながら六月二十三日の受審に臨みました。

(4) 受審日における評価等

当日は四名(統括、医師、看護師)のサーベイヤーが来院し、当院の事業について、質疑応答すると共に総点検していただきました。三日間の対応は厳しいものもありましたが、対応者にとっても勉強になることが多かったです。また、その指摘の中には、当院の現状からみて直ちに是正あるいは、取り組みを始めることが出来ないこともありました。

総体的には、「院長を中心によく頑張っている病院である」との評価を得ました。特に、経営的な面、あるいは少数職場における頑張りが強調されました。そのような評価にもかかわらず、Version6の認定が一回で認定されるのかどうか、何らかの指摘があり、対応を求められるのか一抹の不安と一つの事業が終了した安堵感で結果を待っていたところです。

最終的には、九月の当機能評価機構の運営委員会でも一回で認定されました。

(5) 昭島病院の新たな展開へ

今回の病院機能評価Version6の受審にあたって、六領域三百六十五項目に渡って職員が一丸となってチェックし、また、専門家からの評価も受けました。今回の認定により、当院が一定水準の医療サービスを提供しているものと証されました。ただ、これに甘んじることなく、今後とも、一層地域に根ざし、かつ安心、安全、信頼を得られる病院として各評価項目についてグリードアップを図らなければなりません。合わせて、今回の受審を糧として、患者のため新たな展開をすべく、全職員一層努力していく所存であります。

「あきしまおもちゃ病院昭
和郷分室」の開院について

ニューフジホーム

副園長 魚津 亮太

本会の施設が多く所在する昭和郷地区(東京都昭島市)では地域連携事業を進めてきました。現在昭和郷地区においてフジホームによる「高齢者総合相談事業」、万世敬老園による「昭和郷シニア大学」、保育園による「子育て支援事業」、そして昭島病院では「市民講座」として健康や医療に関する各種研修会を行っています。

さらに今年度より地域の方々に施設の一部を開放し、昭和郷施設を活用していただくとうと、地域の方々とのふれあいの場をつくることといたしました。

「おもちゃ病院」の設置

七月七日より昭和郷事務所一階において、地域のボランティアサークルによる「あきしまおもちゃ病院昭和郷分室」を開院しました。「あきしまおもちゃ病院」は昭島市社会福祉協議会主催「おもちゃドクター養成講座」を修了した有志で結成したボランティアグループで、年間約四〇〇件のおもちゃ修理をしています。現在は昭島市保健福祉センター「あいぼっく」及び昭島市児童

センター「ばれっと」を拠点に定期窓口を、また市内の保育園、幼稚園で定期的に出張修理を行っています。

そのおもちゃ病院の分室として今回昭和郷施設内に開院しました。「壊れて使わなくなったおもちゃも修理すればまた遊ぶことができます。子どもたちには物の大切さを知ってもらいたい」と代表の石倉さん。初日から早速修理の注文が入りました。

鉄道模型の展示・運転体験

昭和郷分室では「おもちゃ病院」に加え、鉄道模型の展示・運転体験コーナーも常設しています。精巧に出来たジオラマでは昭和時代の田舎風景を再現しており、おとなの方も十分楽しめる本格的なものです。



近隣の小学生は自分の模型を持ち寄り、自由に走らせているほか、隣のグループホームの高齢者も立ち寄って懐かしい風景を眺めることで思い出や昔話をしてくれます。受付横ではプラレールもあり、小さな子どもたちも自由に遊ぶことができ、人気があります。

車いすの整備貸し出し

今後は、おもちゃドクターによる車いすのタイヤのパンクや不具合など、簡単な整備や修理を行うコーナーを開設する予定です。また昭和郷各施設で不要になった車いすを再整備して貸し出す事業を予定しています。

昭和郷各施設では今後も地域の方々とともに気軽に立ち寄れる施設づくりを目指し、子どもから高齢者まで安心して生活できる街づくりを応援してまいります。

「あきしまおもちゃ病院昭和郷分室」は小さな子どもから高齢者の方まで楽しめる場となっています。ぜひ一度お越しください。

あきしまおもちゃ病院

昭和郷分室

開院日：毎月第一・三・五木曜日
開院時間：午後一時三〇分～午後五時
(冬期は午後四時まで)
場 所：昭和郷事務所一階

ご支援ありがとうございます
(敬称略順不同)

ご 寄 附

◇小川栄吉 ◇高橋昭二 ◇平野孝明 ◇山本朝子 ◇昭島サンセルフ 高野寛 ◇アメリカン・エキスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド ◇国際ロッヂ No.15 ◇マツダドライサービス

後 援 会

◇内田祥二 ◇大西 陽 ◇香山征士 ◇佐々木みつる ◇田島真 ◇中村浩二 ◇細谷寛子 ◇本田ふき子 ◇横島房子 ◇山内悦 ◇(有)アタック ◇石塚家具店 ◇イナダオフィス サプライ ◇おしゃれの店 ひらまつ ◇おしゃれ洋品ウエノヤ ◇(株)カトービルドシステム ◇風間造園(株) ◇川鍋商事(株) ◇(株)クリンリース ◇桑都ビル管理(株) ◇昭和の森エリアサービス(株) ◇東京フードサービス(株) ◇東京福祉専門学校 ◇東京冷機工業(株) ◇(株)NAKS 警備 ◇(株)Nursing ◇日本エンゼル(株)西東京 F・S・O ◇NPO 法人日本幼児健康体育協会 ◇ヘアパルおかもと 岡本廣 ◇樋川工業(株) ◇マツダドライサービス ◇(株)ミートショップの鈴政 ◇(株)ミナカミ ◇(株)安江設計研究所 ◇横田屋米店 ◇(有)横溝造園 ◇(株)レクトン

※「同援だより」に名簿掲載希望欄へのご承諾を頂いた方のみ掲載しております。

平成二十三年年度

永年勤続者表彰式



平成二十三年十月五日(水)

同援永年勤続者表彰式が行われました。

■永年勤続三十年をむかえて

つづしが丘保育園

園長 上林 唱子

この度は、永年勤続表彰を頂き誠にありがとうございました。

過ぎ去った年月を振り返ってみますと無我夢中とにかく「生懸命」頑張ってきた気がします。初めて昭和郷保育園保母として四歳児二十九名一人を担当を任せられ、ぎりぎりの職員配置の中で「やるしかない」の気持ちを後押ししてくれたのが子どもたちの元気と笑顔、そして保護者の「先生大変だけどがんばって！何かあつたら力になるからね」の言葉でした。

その後、結婚して長男出産後、声をかけて頂き再び昭和郷保育園に勤務して三十年。二男を妊娠した昭和五十七年、まだまだ女性が結婚、妊娠、出産して働くには大変厳しい時代でしたが、上司の理解と同僚の協力のお蔭で、産前産後職場復帰の第一号となりました。その後、家庭と仕事、子育ての両立に悩み

苦しんだ時期もありましたが、三男まで生み育てることができましたことに感謝いたします。

今は亡き石井園長のもとで、十五年間主任として務めさせていただきました。先見の明がありいち早く地域需要に応えどんな時代が来ても、保育園が生き残れるようにと一歳から二歳に、翌年には一歳から〇歳と受け入れ年齢を引き下げたことはさすがでした。また



老人の一人暮らしの増加に伴い、近隣のお年寄りにお弁当を配る配食サービスも積極的にを行い、年長児は幼心にも人の役にたつ喜びを実感し、喜ばれました。

「必要なことはまず実行すること」「実績を積むことが大事」と障害児受け入れや特例保育から時間延長に取り組むなど、沢山のことを教示頂きました。法人内異動で昭和郷第二保育園に三年、同援みどり保育園二年後再び昭和郷保育園に異動。園名は同じでも仮園舎であり、職員もほとんど変わっていましたので二からのスタートでした。その年から、サンライズ万世、昭和郷保育園、双葉園の改築工事にかかわれたことは、私にとつて大変多くのことを学ばせていただきました。

三十年の間に保育制度も変わり便利な世の中になった今、人の心までが変わらないではいまいと願います。

同援護会の大きな傘の下で思いっきり仕事をさせていただけることに感謝し、今日まで私を支え続けてくださっている方々に心からありがとうございました。

■永年勤続二十年をむかえて

事業局

局長 梶原 和人

平成二年、元局長の縁故を頼りに入局し二十年が経ちました。



の仲間入りと相成りました。

前職の万事おらかな、運送会社からの転職で、粗忽者の私は当初失敗の連続でした。挨拶状の中身のカードを納品するも、封筒を忘れる等はかわいいもので、今振り返っても汗顔の至りです。当時事業局は、東京都庁内に喫茶と文房具店を経営しており、休憩時に寄つて「おやじ、しるこに餅二ツ」と頼むと「身内なのに餅は贅沢だ、我慢しろ」と言われた事も懐かしく思い出されます。

事務所に残る過去の資料により、昭和四十年代銀行からの借入金があり、当時経営の苦境に追い込まれた様子がうかがわれます。その後平成十年頃迄は順調だった事業局の実績も、官庁の経費削減、OA機器の目覚ましい進歩により、軽印刷業界は、他業種同様生き残りかけた競争まっただ中です。

業界紙により、平成元年を百とし、平成十九年には事業所数で五七％、一人当たり給与は六十二％と暗澹たる様子と成りました。当事業局も御多分にもれず、平成十三年には赤字決算寸前の状態に落ち入りました。それ以降、経費の見直しは基より、業務分担を画一せず、平易では有りますがみなで協力し、生産性の向上を図る事に

幼かった我が子は、上から私を見下ろして会話し、健康診断では、堂々と高血圧

より今日迄生き残ることが出来ました。どの業界も、二十年の歳月は相当の変化と進歩をもたらすものでしょうが、ガリバン、活版、写植、タイプ、ワープロからパソコン、スマートフォン等へと、ペーパーがささやかれる全盛時代が不動のものとなりつつあります。大きな時代の流れには抗えませんが、サービスマン、収益は後からついて来るの精神でいるつもりです。

今、事業局では、後事を託するに充分な力を持った若い人が育っています。

今後とも地味ながらコツコツとお客さんに喜ばれる印刷物を全局員で協力し作り続けたいと思っています。老眼がつけられたので了とします。

■ 永年勤続十年をむかえて

昭島病院
看護師 福田みどり



早いもので、昭島病院に入職してから十年が経ちました。無事に十年を迎える事ができ、今まで支えてくださった方々に心から感謝します。

普段病気をしない私が、昭島に引越して間もなく、激しい嘔吐と腹痛に苦しみ、夜間に診察してもらったのが昭島病院でした。つらい時優しく迅速に対

応していただきとても感謝しています。その何年後に面接で訪れた時(夜間には気づかなかつた)何でも鑑定団に出せそうなくらいレトロな建物と大きい桜の木に圧倒されたのを思い出します。

入職時より外来で勤務してきました。いざ働く側にまわると、患者さんの対応や忙しい業務のストレスで正直辞めようかと思つた事も何回かありました。その度同僚の温かい励ましや上司のアドバイスを受け、何とか乗り切ることができました。さすがに外来に十年もいると患者さんと顔なじみになり「久しぶりだね」と声をかけられたり、相談される事も多くなり、有意義な十年だったと思つています。

外来はスタッフの雰囲気がよく、まとまりのある職場です。しかし、複雑な仕事に追われ、一日の業務をこなすので手いっぱいの日があるのが実情です。外来看護を考えるスタッフ一同とてもジェンマを感じています。他の病院では看護師による糖尿病フット外来やストマ外来など、看護外来が開設されているところが増えてきました。看護外来はすぐには無理ですが、業務のスリム化を図り、ターミナルの方の心のケアや、糖尿病の生活指導など看護の時間がゆつくり取れたらと思います。

私も取得した糖尿病や内視鏡の資格を生かし、今後の外来業務に微力ながらも尽力していきたいと思っています。

永年勤続者表彰者名簿

30年勤続表彰者一覧

平成23年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
むさしの保育園	園長	高橋百合子
同援みどり保育園	園長	横山久子
つじが丘保育園	園長	上林美枝
同援さくら保育園	園長	酒井奈々子
サンライズ万世	母子指導員	小島房子

20年勤続表彰者一覧

平成23年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
フジホーム	介護職員	川上澄人
小茂根福祉園	事務職員	久保田俊之
小茂根福祉園	生活支援員	長利浩文
昭島	介護職員	諸田上江
昭島第二保育園	栄養士	久保田恵子
みどり保育園	保育士	嶋田静江
双葉園(高嶋の家)	保育士	寶田真奈美
昭島	局長	江田祐人
昭島	准看護師	梶原和子
昭島	事務職員	関野弘章
昭島	事務職員	吉田章

10年勤続表彰者一覧

平成23年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
万世敬老園	生活相談員	加藤敏隆
フジホーム	生活相談員	山下修平
原町ホム	看護師	近藤せつ子
ゆたか	生活支援員	奥山健司
小茂根福祉園	生活支援員	片岡和人
小茂根福祉園	生活支援員	小濱夏子
東村山生活実習所	生活支援員	



撮影：平成23年10月5日(場所：新宿NSビル305会議室)

施設名	職種	職員氏名
東村山生活実習所	生活支援員	若林昌史
さいわい福祉センター	栄養士	関口直志
むさしの保育園	保育士	松田菜美
大山保育園	保育士	西澤久美子
つじが丘保育園	保育士	田川亜矢子
双葉園(高嶋の家)	保育士	坂場美矢子
昭島	医師	福田みどり
昭島	看護師	甲斐尚美
昭島	看護師	中森節子



◆ サンライズ青山 ◆

母子生活支援施設であるサンライズ青山には、赤ちゃんから高校生までの子ども達とお母さん方が一緒に生活しています。

ここでは小学生と中学生を中心とした学童の夏休みを紹介したいと思います。子ども達の健やかな育ちを踏まえ、自主性・協調性・積極性等が身に付けられるよう様々なメニューを企画して実施しました。

七月の子ども会で、夏休みの過ごし方について話し合いが行われ、子ども達による日課表・日程表が作成されました。午前中は学習室での勉強の時間、子ども達の要望に沿って昼食会も数回開催しました。年上の子が年下の子にアドバイスしたり役割分担を決めたりと、和やかな雰囲気です。また、うちわ作りやアークセサリー作り、Tシャツの絞り染めの活動も行い、自由研究の題材にする子もいました。



体験外出の学童行事では、奥多摩へ宿泊キャンプに行きました。川遊びや川魚マスの手掴み取り、カレー作り等々、大はしゃぎしながら子ども達は元氣一杯な笑顔を見せて過していました。

学童にとつての夏休みの過ごし方は、日常生活の延長線上にも通じ、とても大切な時間ではないかと思えます。子ども達が心遅しく情緒豊かに育つことを願いながら、今後も様々な創意工夫した支援をして行きたいと思えます。

(綿引 記)

◆ 大山保育園 ◆

大山保育園では世代間交流として、幼児組になると月に二回折り紙広場を行っています。近隣のおばあちゃんが来て下さり季節に合わせた折り紙を楽しく子ども達に教えて頂いています。

今年で折り紙広場は三年目となり子ども達も「おばあちゃん、まだかな?」「今日は何を教えてくれるかな?」とても楽しみにしています。おばあちゃん達が折り紙を教え始めるとびたつと寄り添いながら二つやり方を真剣に聞いたり、折り方を確認したりと楽しみながら取り組んでいる姿が見られます。教えてもらいながら自分で二つの作品を作りあげたことに対して「出来た!」と目を輝かせて喜び、自信にもつながります。また、折り紙をしながらおしゃべりをする中で昔の話を聞いたり、子ども達が自分のことを話したりと話がどんどん膨らみコミュニケーションの場ともなっています。子ども達が楽しんでいるだけでなく、おばあちゃん達からも「いつも楽しませてもらっています」「子ども達と会うのが本当に嬉しくて」と子ども達と触れ合うことをとても喜んでもらっている声が聞かれます。

万世敬老園 あぢさゐ句会

夕膳の
舌しあわせに冷麦か
宣 準子

朝蟬に
今日の元氣と貰いけり
月岡 久三

七夕や
忘れた昔思い出す
佐藤 正子

蝉しぐれ
試歩許され友に添う
佐藤 玲子



(花田 記)

現在、核家族が進み祖父母が近くに
いなかったり、近所との関わりがなかつ
たりし、昔から伝わってきた遊びや、
風習などを知らない子どもが増えてき
ています。
当園では折り紙広場などを通じ様々
な世代や地域の方と関わる機会を持つ
ことで、色々なことに興味を持って経験
すると共に、相手のことを思いやりたり、
誰とでもコミュニケーションをとったりと心
の豊かさも育てていけるようにしていま
す。今後も継続しながら子ども達の経
験、成長につなげていけたらと思います。

◆ 万世敬老園 ◆



万世敬老園は、平成二十三年五月に
開設六十周年を迎えました。六十周年
というのは、中途半端な感じがあります
が、人間で言えば、還暦のお祝いです。高
齢者施設らしく、敬老行事にて、一緒に
お祝いを行おう！という事で、九月十五
日、敬老大会を盛大に実施しました。
「笑う門には、福来たる」という諺があ
ります。「笑う」という事は、実は介護予
防にもつながりますし、健康につながり
ます。いつまでも元気で長生きを…とい
うことで「職員全員で皆さまを笑わせよ
う」という目標を立てました。



(加藤 記)

各部署職員が、様々な格好で、歌を歌
い、踊り、会場に大きな「笑い」を生み、利
用者の中からは「楽しかった」「久しぶり
に大きな声で笑った」「お腹が痛くなった」
などの声が聞かれ、とても楽しまれた様
子でした。
万世敬老園は六十歳という、まだまだ
若い年齢です。万世敬老園の平均年齢に
も達しておりません。これからも、七十
歳、七十七歳、八十八歳と、皆様と共に年
齢を重ねて行ければと思っております。
そしていつか「万世敬老園も皆様と同じ
年齢になりました！」とお祝いをしたい
と思います。

昭島荘 道句会

冠のように

華やか 曼珠沙華

博吉

さんま船

大漁旗と なびかせて

通子

秋の風

強く吹いて 気持らよく

信吾

夕風の

中道飾り 萩の花

フキ子

妹に

会いたき日々や 虫しぐれ

美智子

飢えし日の
想い出深し 秋の風

秀雄

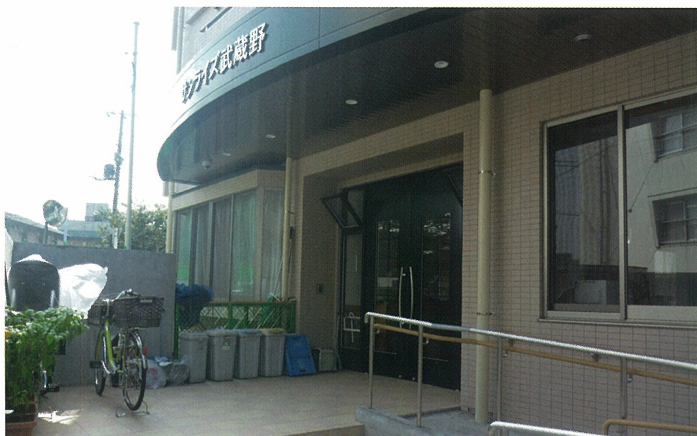


「施設改築第Ⅰ期工事を 終えて」

サンライズ武蔵野

石川 宜子

平成十八年より施設改築の検討を始めました。むさしの保育園との合築で、地域を変えずに改築を行うということで、建替え中の行き先を探しましたが、なかなか適当



な場所は見つかりませんでした。そのような中、現在地で施設を半分ずつ建て替えるという案をいただき、改築が実現できることになりました。サンライズ武蔵野は定員二十世帯の施設ですが、平成二十二年十二月中旬より改築工事が開始となり、平成二十三年九月二十二日に第Ⅰ期工事が完了しました。



ごしている姿は嬉しい限りです。好きな時に順番を気にせず、ゆっくりお風呂に入れるようになって良かった、という利用者さん方の中には、トイレやシャワーのために居室の外へ行かなくて良くなった反面、他の利用者の方と顔を合わせる事が少なくなって寂しい、という声も聞かれます。今後の利用者さん方の交流支援は、課題の一つとして取り組んでいきたいと思っています。

十月に入り、旧施設の解体も始まりました。第Ⅱ期工事は仮設部分が多い状況ですので、利用者さん方の安全を第一に進めていく所存です。

資格取得の紹介

左記の方が資格取得しました。

日頃の業務に生かして活躍を期待します。

【介護支援専門員】

ニューフジホーム

介護職員 齊藤 恵美

雑感

先日休暇を利用して少しでも東北復興の一助となればと新幹線とレンタカーを利用し、青森県を旅行してきました。

青森県の中でも日本海側は震災の影響は少ないように感じましたが、行く先々の町ではそれぞれに「がんばれ東北！」という雰囲気、一体感が感じられ、竜飛岬、ミコト神を始めとする素朴な自然と海の幸や温泉を堪能しました。人々の笑顔や映画に出演したフサイク犬「わさお」に癒されました。部ではまだ元の生活に戻ることは出来ませんが一日も早く東北全体に笑顔が戻ればと願うばかりです。皆さんも是非東北へ「大人の休日」してみませんか。

(岡本 記)

― 表紙の写真 ―

「山中湖にて」 (平尾正二氏)

平成二十三年十月三十一日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四一)七六一
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会
発行者 牧野 洋一
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都千代田区外神田一―一五